

## 佐々木舞「風評被害とその回復に向けて」

### 1. 栃木県産いちごの被害状況

原発事故後の栃木産のいちごの市場価格は平年の価格は原発問題がニュースなどで取り上げられた時期から急激に落ち込みはじめ、3月22日には最低額の230円を記録し例年の平均を110円下回り、多少の変動はあったものの4月21日頃までそのままの価格での取引が続いた。これは平年の価格や被害を受けなかった競合県の価格に比べて明らかに低下した額であり、風評被害による実害が見うけられる。スーパーなどでも半額で売られるいちごが目立ち、もしくは「栃木県産」という文字を見ないこともあった。また、県内に約30箇所ある観光いちご園等も3~4月の最も収益が期待される時期であったものの団体バスのキャンセル等が相次ぎ、当該時期の入場料収入が対前年比70%と大幅減収に繋がった。地震前までは関東圏からの観光客でにぎわっていたいちご園が事故後はガラガラになっていた、というのもめずらしくなかったようである。他国への輸出も相手国の輸出規制によりほとんど出荷できない状態が続いている。

### 2. 栃木県産いちごの安全性

栃木県は県産露地物ハウレンソウなどから食品衛生法上の暫定基準値を超える放射性物質が検出された問題により全国シェアの高いいちごについても調査を行い、全てが基準値を下回ることを発表した。県内の9地点で採取したいちごの放射性セシウムと放射性ヨウ素の量を調べたところ、いちごのセシウムの値は最高地点でも基準値の2.6%にあたる13.03ベクレル、ヨウ素は基準値の3.4%である68.7ベクレルであり、いずれも基準値を大きく下回る結果となった。この結果は新聞やニュースでも取り上げられ、県のホームページなどでも広く取り扱われているため、多くの国民の耳に届いているはずである<sup>ii</sup>。

### 3. 農産物損害賠償請求

福島第一原子力発電所事故による農産物被害(出荷制限や風評被害によるもの)の損害賠償請求はJA栃木中央会が中心となり、県内全ての農家が受けた損害を取りまとめて原子力損害賠償紛争委員会へ提出する<sup>iii</sup>。

### 4. 風評払拭へ向けた県内での活動

市ではそれぞれいちご狩りのイベントが行なわれている。栃木県都賀町では6月5日に町内のいちご農家を会場に恒例の「いちご狩りフェスティバル」を開催し、入場料を全額義援金として被災者に送るとともに栃木県産いちごのイメージアップをはかった。その様子は県の広報内に写真で掲載されている。写真には幼い子供がいちごをほおぼっている姿

が大きく写されており、家族連れの参加者の多さがうかがわれた<sup>iv</sup>。

また、栃木県真岡市では「真岡いちごまつり」が行なわれ、家族連れら約 8000 人が訪れた。会場では新鮮ないちごが数多く販売され、へた飛ばし大会などのイベントもありにぎわったようだ<sup>v</sup>。

県でも「がんばろう!とちぎの観光フェア」や「けんちょう de 愛ふれあい直売所」など栃木県産農産物の販売や観光 PR を目的としたイベントが 4 月から数多く実施されており、全国的な被災地支援の流れも重なってか好成績を残している<sup>vi</sup>。

## 5. 風評払拭へ向けた県外への活動

栃木県では県内で行なうイベント同様東京都や千葉県、埼玉県、神奈川県など首都圏を中心に「大好き!栃木県産とちおとめスイーツフェア」「栃木県農産物チャリティフェア」「食べて応援しよう!東日本野菜フェア」など県産品の販売や観光 PR のためのイベントを開催して射る<sup>vii</sup>。中でも東京都で行なわれた「食べて応援しよう!東日本野菜フェア」では芸能人の楽しんごや井上マーが参加したこともあり<sup>viii</sup>、被災地支援の士気が高まった。

また JA グループ栃木は東日本大震災で壊滅的な被害を受けた東北最大のいちご産地である宮城県 JA 宮城亘理に「とちおとめ」の苗 100 万本を無償で供給し、同じ産地の復活を最大限支援することを決定した。6 月 13 日に 25 万本が提供され、8 月にかけて 100 万本を渡す予定だ<sup>ix</sup>。この活動は風評被害の縮小を目的としたものではなく直接いちごの出荷等には関係ないが、被災地の農産物のイメージアップに繋がるため、結果として風評被害の払拭になるのではないかと考えられる。

## 6. 調査にあたっての疑問点

風評被害についての記事や県または市のホームページを調べていくうちに疑問に思ったことは県のホームページには物産展等被災に関するイベントが数多く案内されていたのに対し、宇都宮のホームページには被害状況や農家に対する損害賠償訴訟、計画停電の案内など、生活についての掲示は多く見られたものの、風評回復に関する内容は一つも掲載されておらず、イベントごとは災害とは関係のないものばかりだったことである。また、新聞でも宇都宮市としての風評被害に関する記事もみつからなかった。各企業個々であればスーパーやレストランなどで被災地復興キャンペーンをよく見かけることから宇都宮市内でも復興活動は行なわれていることが確実だが、市での取り組みはないように思われる。

宇都宮市は市街地でありいちごやホウレンソウなどを栽培している農家は多くないのかもしれないが、県庁所在地である宇都宮が率先して栃木を引っ張っていくべきなのではないかと感じた。もしくは何か活動したならば事前事後の報告をすべきであるし、直接協力はなくても県と連携をとって市民に協力を促すためにイベント情報の提示をするべきなのではないか。こういうときだからこそ単独での活動ではなく県と市が協力し合った復興が望まれる。

## 7. さいごに

平成 23 年 3 月 11 日に東日本を襲った大地震は日本にさまざまな被害をもたらした。福島原子力発電所の事故はもちろんそれによる今回の風評被害もその一つである。

しかし、風評被害がほかの被害と異なる点はそれが人の噂によるものだということだ。もちろん、人体に影響のある作物の出荷規制は当然のことであるし、それは風評による被害ではない。だが出荷を一時規制されたことによって安全だと確認されたものまで有害のレッテルを貼り敬遠されるのは被災地の農業を崩壊に導く人の噂による人災である。災害は防げなくとも人災は私たちの努力でなくすことができる。

今回はいちごのみを取り上げて調査をしたが、いちごに限らずハウレンソウなど風評被害で損害を受けているものは数多くある。しかし、被災地のみならず西日本の各都道府県が被災地支援のためにさまざまな催しを行い復興に大きな後押しをしているおかげで少しずつではあるが福島周辺の農業経営は回復し始めている。いちごフェアでは原発問題を最も懸念している家族連れも多く参加していた。全国的に風評被害をなくそうという意識が高まってきているのである。

この動きをより高めるためにも先にも述べたように県と市が互いに協力してこの問題に取り組むべきではないだろうか。広告は目にした人の数が多ければ多いほど参加者が増える可能性が増す。また目にする回数が多ければそれだけ印象にも残る。県で行なっている取り組みを市が後押しすることで復興の士気はより高められるのではないか。逆もまた然りである。被害の早急な改善には各機関の相互協力が必要である。

損害を受けた地域の金銭援助も重要な課題の一つではあるが、震災が過ぎ去った今これからの農家がどう自立するかも今後の経済を支えるにおいては大きな問題となる。私達ひとりひとりの意識が重要となる風評被害の払拭という課題において、それを促す役所の働きもまた重要なのである。

---

<sup>i</sup>栃木県の被害の現状について

[[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/kaihatu/016/shiryo/\\_icsFiles/afieldfile/2011/05/31/1306687\\_1\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/kaihatu/016/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2011/05/31/1306687_1_1.pdf)](2011 年 6 月現在)

<sup>ii</sup>下野新聞[<http://www.shimotsuke.co.jp/news/tochigi/top/news/20110324/480814>](2011 年 3 月現在)

<sup>iii</sup>うつのみや[<http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/oshirase/19078/019334.html>](2011 年 6 月現在)

<sup>iv</sup>読売新聞[<http://www.yomiuri.co.jp/gourmet/news/business/20110516-OYT8T00465.htm>](2011 年 6 月現在)

<sup>vi</sup>栃木県[<http://www.pref.tochigi.lg.jp/f05/kanko/event-information.html>] (2011 年 6 月現在)

<sup>vii</sup>前掲[<http://www.pref.tochigi.lg.jp/f05/kanko/event-information.html>]

<sup>viii</sup>Sponichi Annex[<http://www.sponichi.co.jp/entertainment/news/2011/06/10/kiji/K20110610000992400.html>] (2011 年 6 月現在)

<sup>ix</sup>asahi.com[<http://www.asahi.com/special/10005/TKY201106130304.html>] (2011 年 6 月現在)